

HIV 感染患者における新規抗 HIV 治療薬の 有効性と安全性に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年11月28日～2020年3月31日

〔研究課題〕 HIV 感染患者における新規抗 HIV 治療薬の薬剤使用状況と有効性・安全性の解析

〔研究目的〕 2016年以降、新たにテノビルアラフェナミドを含む2種類の薬剤(デシコビ®・ゲンボイヤ®)と、ダルナビル/コビスタット(プレジコボックス®)という抗 HIV 薬が使用可能となり、その効果から広く用いられるようになってきました。本研究では、これらの薬剤の当院での使用状況を明らかにし、またこれらの薬剤の効果と安全性を調べます。特に、HIV 感染症における長期合併症の一つである骨密度低下について、これらの薬剤の効果と安全性を調べます。

〔研究意義〕 実際の臨床現場でその効果および安全性を確認することで、今後も安心してこれらの薬剤が使用できるようになります。特に骨密度に対する効果を確認することで、これらの薬剤を特に使用するべき患者様を特定することも可能となります。

〔対象・研究方法〕 2016年4月-2018年8月までに当院内科に HIV 感染症で通院されている男性の成人患者様を対象としています。対象薬品開始前及び開始後、HIV 治療薬の内容や開始前後での血液検査及び骨密度検査などについて、カルテを参照して調べます。

〔研究機関名および責任者名〕 帝京大学医学部附属病院/吉野友祐(内科学講座・講師)

〔個人情報の取り扱い〕 研究中は、得た情報は本人とわからないように匿名化し、データは、それぞれパスワードを設定したファイルに記録し、研究室に保存して、鍵の掛かるキャビネットに保管します。研究終了後は帝京大学臨床研究センター(TARC)にて10年間厳重に保管ののち、保管した情報は破棄します。

〔その他〕 研究に際して、患者様の負担になることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 吉野友祐・内科学講座・講師

研究分担者： 北沢貴利・内科学講座・准教授

研究分担者： 太田康男・内科学講座・客員教授/独立行政法人国立病院機構東埼玉病院副院長

住所： 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211(代表) [内線 7731]